

科目名	コミュニケーション特論			分野・必選別・単位数	基礎科目	必修	2単位
担当教員	◎講師(非) 橋本章子 准教授 茂呂浩光 講師 高梨利満 講師 高山祐輔					科目ナンバー	T5B104
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	コミュニケーションの最適なアウトカムを得るため、コミュニケーションの理論・実践方法・評価・分析方法を学び、病院前救急救護現場や医療関係者、行政関係者、職場内、メディア等とのコミュニケーション能力を開発する。						
授業の到達目標	<p>①病院前救急救護現場は、短時間の中で傷病者及び関係者や、医療機関における医療関係者など、救急現場を取り巻く関係者との病院前救急救護コミュニケーションのあり方について、具体的状況を想定しながら説明できる。</p> <p>②119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集等、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションのあり方を説明できる。</p> <p>③病院前救急救護活動でのチームメイトとのコミュニケーションのあり方を説明できる。</p> <p>④メディアとのコミュニケーションの重要性とその手法を説明できる。</p>						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	橋本 章子	講師(非)	<コミュニケーション学の基礎> コミュニケーション能力を高めるためには、自己理解や自己受容を通して異文化理解や多様性の理解が必須であることを理解し説明できる。KW:自己理解、他者理解、異文化、内観法			
	2	橋本 章子	講師(非)	<医療コミュニケーション> 共感的かつ瞬時に信頼関係を構築し、冷静に情報を授受できる能力を必要とする医療コミュニケーションの特長を理解し説明できる。KW:テクニカルスキル ノンテクニカルスキル			
	3	橋本 章子	講師(非)	<医療コミュニケーションの評価と実証方法> 社会に貢献し意味あるデータを発信していくための医療コミュニケーションの研究法や実証方法について臨床倫理を踏まえて理解し説明できる。KW:臨床倫理 質的研究法 量的研究法			
	4	茂呂 浩光	准教授	<病院前救急救護コミュニケーション> 病院前救急救護活動の特殊性を理解し、チームメイトとの意思疎通の重要性と他医療業種のコミュニケーションとの違いを理解し、病院前救急救護コミュニケーションの特長を説明できる。			
	5	高梨 利満	講師	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ①> 傷病者・救護者間のコミュニケーションの一般的なあり方を説明できる。			
	6	高梨 利満	講師	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ②> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者及び関係者など取り扱い場面ごとにおけるコミュニケーションのあり方を説明できる。			
	7	高梨 利満	講師	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ③> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者及び関係者など取り扱い場面ごとにおけるコミュニケーションのあり方を説明できる。			
	8	高梨 利満	講師	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ④> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者及び関係者など取り扱い場面ごとにおけるコミュニケーションのあり方を説明できる。			
	9	高山 祐輔	講師	<119番通報時等のブラインドコミュニケーションのあり方 ①> 119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集など、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションの具体的なコミュニケーションの特長について説明できる。			
	10	高山 祐輔	講師	<119番通報時等のブラインドコミュニケーションのあり方 ②> 119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集など、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションの具体的なコミュニケーションの特長について説明できる。			
	11	橋本 章子	講師(非)	<広聴対応のコミュニケーション ①> 病院前救急救護活動のクレーム対応やコミュニケーション技法について理解し説明できる。KW:クレーム対応、メタコミュニケーション 転移 逆転移 ノンバーバルコミュニケーション			
	12	茂呂 浩光	准教授	<広聴対応のコミュニケーション ②> 病院前救急救護活動のクレームに関わるコミュニケーションの特長について説明できる。			
	13	高梨 利満	講師	<病院前救急救護コミュニケーションの評価と実証研究を深める> 病院前救急救護コミュニケーションの評価と実証方法について、その要点を説明できる。			
	14	茂呂 浩光	准教授	<行政上の折衝に関わるコミュニケーション> 行政関係者及び医療従事者との折衝におけるコミュニケーションの特長について、その要点を説明できる。			
15	橋本 章子	講師(非)	<メディアとのコミュニケーション> 病院前救急救護情報の普及におけるマスメディアの役割と活用法、サステナビリティについて、理解し説明できる。KW:サステナビリティ、社会貢献				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の授業内容に関して、事前に研究しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時、指示する。						
参考書	「救急活動コミュニケーションスキル 何を聞く?何を伝える?」坂本哲也 畑中哲生 松本 尚 Medical Science 「高齢者とのコミュニケーション」野村豊子著 中央法規出版 「精神科看護のコミュニケーション技術」平澤 久一著 日総研						
成績評価の方法および基準	講義ごとのレポート100%						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						